

## 令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(理科)科目:(化学基礎) 対象:(第2学年1組～5組)

科目担当者:1～5組 齋藤

教科・科目の 指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</li> <li>・日常生活や社会との関連を図りながら、化学現象への関心を高める。</li> <li>・知的好奇心を持ち、科学的に探究する能力と態度を育てる。</li> </ul>
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 生活体験が乏しく、生活の中での事象と関連して現象を考える機会が少なくなっている。もっている知識と日常の化学変化現象との関連を考える生徒は少ない。しかし、視覚的に変化が起こることについては特に興味を示す。</p> <p>2 中学校理科の第1分野で学習する基本的な用語について、言葉は知っているがその正確な意味を理解していない。計算を苦手としており、小中学校で習う計算も時間がかかってしまう生徒が多い。</p>	<p>1 生徒の興味・関心や生活体験と結びつけた授業展開をおこなう。</p> <p>2 視覚教材の提示と実験実習を多く取り入れた授業を実施する。</p> <p>3 実験実習や講義の中で、自分の考え方を自分の言葉で表現できる教材を意識的に準備する。</p> <p>4 授業の最後に練習問題を行うことで知識の定着を図る。</p>	<p>1 左記の1～4を実践するための十分な教材研究と教材の準備を時間をかけてを行う。</p> <p>2 実験実習に必要な機器や器具等の配備を十分に行う。</p> <p>3 ICT機器を利用した視聴覚教材の提示と準備を行う。</p> <p>4 準備室を拠点として上記体制が取れるよう、実験室や準備室の設備充実を図る。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			